

日本の学童ほいく

全国学童保育連絡協議会

普及拡大 ニュース

みんなで読もう！ 目標 3万3000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。みんなで読んで、語って、楽しみながら、よりよい学童保育をつくっていきましょう。

2024年8月21日

元気が出る
みんなの
取り組みを
ご紹介

楽しく普及拡大

子どもも、保護者も、指導員も、読み応えのある記事が満載です！

さあ！ほいく誌購読の輪を広げよう！仲間を増やそう！

近畿・北陸・東海の取り組みを紹介します！ part 1

県連協発行ニュース「いま日本の学童ほいくがおもしろい」は300号まで発行！指導員会の研修で活用しています。普及拡大の取り組みとして、ほいく誌のPR動画を制作。第58回全国研全体会でも放映できました。



石川県連協の取り組み！

県連協の会員になっている学童保育指導員が、毎月、ほいく誌のいいなと思ったページを保護者や学童保育関係者におすすめしています。



富山県連協の取り組み！



滋賀県連協の取り組み！

県連協発行の「しが学童保育ニュース」で、ほいく誌の購読を呼びかけています。また、研修のテキストとして活用しています。県連協総会や県選出の国会議員との懇談では、チラシや見本誌を配布しています。



岐阜県連協の取り組み！

研修で、バックナンバーを見本誌として配布し、購読の意義をていねいに説明しています。身近な方の記事が掲載されたことをきっかけにしてほしいと購読を呼びかけています。

購読部数の少ないところを県連協でとりまとめ、発送・集金業務を担うこと、手渡しで配布することを大事にしています。原稿依頼、投稿の呼びかけに積極的に協力して、身近な方が掲載されることにつなげています。



三重県連協の取り組み！

県連協内に「ほいく誌部会」をつくり、普及拡大に取り組んでいます。「ほいく誌普及拡大会議」「ほいく誌交流会」をそれぞれ年に2回開催！広報誌「いっぺんよんでみゃー」と、「ほいく誌ファン」を発行しています。



愛知県連協の取り組み！

日本の学童ほいく7月号 特集 一緒に考えよう 学童保育のいまとこれから

今回の特集では、国の学童保育施策の基礎知識や課題となっていること、各地域の学童保育施策や学童保育連絡協議会の取り組みを交流することをおして、「子どもにとって、よりよい学童保育を実現するために大切にしたいこと」「改善につなげるための今後の課題」を考えあいます。



日本の学童ほいく

みんなで読もう！ 目標 3万3000部

子どもを学童保育に通わせる保護者と、子どもたちといっしょに毎日過ごしている指導員が書き手となり、働きながらの子育てを応援し、学童保育の充実の願いをこめてつくられている月刊誌です。

普及拡大 ニュース

2024年8月21日

読者の声

滋賀県近江八幡市●指導員から

新入所の子どもたちが入所してから、あっという間に1か月が経ちました。

人見知りや場所見知りをする子、お母さんと離れるとき「さびしい」と言って泣きだす子など、さまざまでした。いまでは、「ただいまー！」と元気に帰ってきてくれます。

なかには「学校よりも学童のほうが楽しい!!」という声もあって、休まず来てくれて、とてもうれしいです。

外遊びの時間では、学年を問わず、みんなで仲よくルールを考えたりしています。学年が一つ上がったお兄ちゃん・お姉ちゃんたちは、手加減をしてくれたり、楽しく遊べる方法を自ら考えたり。その姿に成長を感じ、頼もしい一面を見ることができました。

これからも学童保育をとおして、人々との関わりのなかで成長していったほしいなと思います。

『日本の学童ほいく』2024年7月号「読者のひろば」より

石川県津幡町●保護者から

2024年4月号の特集「四月☆新しい出会い学童保育」で、読者からの投稿「四月、あの頃わが家では……」を読みました。そこで紹介されていた「私にとっては三回目の『学童保育の保護者』」でも、この子にとっては、まるっきり新しい環境なんだよなあ」という気づきに、私もハッとさせられました。

わが家も長女につづいて、今年から次女が学童保育に入所しました。毎日が楽しく、友達もでき、「おやつもおいしい」と言って満足して帰ってきます。「長女もいるし、大丈夫」と安心して預けていますが、たしかに、新しい環境にまったくストレスがないわけがないよな……と思いました。

家族での会話や団らん、遊びの時間をとおして、家庭という帰る場所がある安心感を持ってもらい、学校や学童保育に楽しく通えるように、見守り、支えていきたいと、思いを新たにしました。

『日本の学童ほいく』2024年7月号「読者のひろば」より



私の勤務する学童保育は、宮崎県都城市の山あいの町にあります。「つくしっ子」と名づけた当学童保育の信念は、何億年も前から生きている「つくし」が、地面の中でずっとつながって根をはっているように、地域にしっかりと根づいて、学童保育を離れてからもなお、ずっと子どもたちやその家族を見守り、つながりを大切にしていこうという思いです。

私にも19歳の息子と11歳の娘がいます。まだ子育て真っただ中です。迷い悩んだりはあるのですが、そんなとき私にはいつも「にぎる手」がありました。それは、母や兄、地域の皆さん、そして現在の職場の仲間の「手」です。その手を握ることで、安心したり、再度立ち上がったたり、前向きになったりしてきました。

もしも、地面に手をついてしまいそうな人がいたら、私の手もその人の「にぎる手」になれるだろうか。そんな気持ちで、日々子どもたちや保護者の皆さんと過ごしています。そして、つくしっ子の「手」をにぎって立ち上がった人がいたならば、その人の手がまた誰かの「にぎる手」となってつながってくれたらうれしいです。これからも、ずっとつながっていく「つくしっ子」が、地域にたくさん増えていくことを望んでいます。人と人との距離が近く感じられる「学童保育」という共同体的なかで、この先の可能性にわくわくしています。

私が学童保育に関わってまだ、8年目。今年新たに出会った、全国各地の学童保育の皆様「分厚い手」をにぎって、人と人のつながりを大切に指導員として成熟していけたらと思います。

読者リレー執筆・宮崎県都城市から
NPO法人子育て支援つくしっ子・指導員の柏木いづみさん
私と「ほ・い・く・誌」

